

2020-2025年に岩手県内で確認された稀な鳥類

高橋雅雄^{1,4,5*}・浅川崇典^{2,6}・金野悠^{3,6}・荒木美智代³
村上悦夫⁴・安藤泰彦⁵・関川實⁶

Recording of rare bird species in Iwate Prefecture during 2020-2025

TAKAHASHI Masao・ASAKAWA Takanori・KONNO Haruka・ARAKI Michiyo
MURAKAMI Etsuo・ANDO Yasuhiko・SEKIKAWA Minoru

¹ 岩手県立博物館 020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34 Iwate Prefectural Museum, Ueda Matsuyashiki 34, Morioka City, 020-0102, Japan.

² 陸前高田市立博物館

³ 株式会社共立ソリューションズ陸前高田営業所

⁴ 八戸野鳥の会

⁵ 日本野鳥の会もりおか

⁶ 日本野鳥の会宮古支部

Abstract

28 rare bird species that had been unrecorded or rarely observed in Iwate Prefecture were identified during 2020-2025.

日本の鳥類は 24 目 83 科 644 種が記録され（日本鳥学会 2024），岩手県では 2007 年末までに 350 種（藤井・四ツ家 2008）が，内陸中部～北部では 2019 年末までに 280 種（日本野鳥の会もりおか事務局 2020）が記録されている．本論文は，岩手県内で 2020 年 1 月～2025 年 12 月に観察された稀な鳥類の記録をまとめたものである．なお，分類は日本鳥類目録改訂第 8 版（日本鳥学会 2024）に拠った．

方法

岩手県内で 2020 年 1 月～2025 年 12 月の 6 年間で観察された鳥類のうち，①本来の分布域から外れた迷鳥と②岩手県内では記録が極めて少ない冬鳥や旅鳥について，県内の野鳥関係者への聞き取りや野鳥関係団体の会報等から情報を収集してまとめた．なお，③数が少ない，または生息密度が低いと考えられる夏鳥や④観察機会の少ない沖合に生息する海鳥は対象から除外した．

結果

以下に詳細を述べる 28 種について観察情報を得た．

(1) ハイイロガン *Anser anser*

宮古市小山田のふれあい公園にて 2025 年 11 月 29 日に成鳥 1 羽を久坂一政氏が発見した．オオハクチョウ *Cygnus cygnus* と共に行動し，ヨシの葉等を採食していた．12 月 4 日まで同所で確認された．岩手日報 2026 年 1 月 1 日号，日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.299（2025 年 12 月・2026 年 1 月号）に掲載された．



写真 1. 観察されたハイイロガン（久坂一政氏撮影）

(2) アカツクシガモ *Tadorna ferruginea*

陸前高田市小友町の小友浦干拓跡地にて2024年5月25日13:00頃にオス成鳥1羽を金野が発見し、浅川も確認した。はじめは降雨により一時的に発生した湿地で緑藻などを採食し、その後に水田で羽繕いしていた。16:40頃に飛び立ち、その後は確認されなかった。東海新報2024年6月8日号、岩手日報2025年11月15日号、日本野鳥の会宮古支部会報「ミサゴの海」No.289(2024年4月・5月号)に掲載された。



写真2. 観察されたアカツクシガモ

(3) ヒメハジロ *Bucephala albeola*

久慈市の長内川河口にて2021年3月25日にメス1羽を高橋宏明氏が発見し、26日・27日も観察された。日本野鳥の会宮古支部会報「ミサゴの海」No.273(2021年4月・5月号)、日本野鳥の会もりおか会報「野鳥通信」2021年3.4月号(NO398号)に掲載された。また、盛岡市東安庭の北上川にて2023年2月21日～23日にオス成鳥1羽を鈴木宏徳氏が発見し、佐藤賢二氏・築川堅治氏・他3名も観察した。ホオジロガモ *B. clangula* のメス10羽～12羽の群れと共に見られた。日本野鳥の会もりおか会報「野鳥通信」2023年3.4月号(NO410号)に掲載された。

(4) ウズラ *Coturnix japonica*

宮古市赤前の水田にて2021年10月14日に畔から飛び立つ1羽を関川が観察した。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.276(2021年10月・11月号)に掲載された。また、宮古市松山の閉伊川河川敷にて2022年11月1日に1羽、2023年11月5日に1羽、2025年10月20日に1羽を関川が観察した。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.282(2022年10月・11月号)・No.286(2023年10月・11月号)・No.298(2025

年10月・11月号)に掲載された。

矢巾町医大通にて2022年10月24日・2023年11月11日・2024年7月14日に、盛岡市盛岡駅西通にて2022年10月24日に死骸の一部(風切羽等)を高橋が発見した。両所にはハヤブサ *Falco peregrinus* が生息し、発見地点はその止まり場所の直下だったため、ハヤブサに捕食されたと推察された。

盛岡市下太田の雫石川河川敷で2022年10月29日に声が作山宗樹氏・嶋田和明氏・嶋田百合子氏他により確認された。日本野鳥の会もりおかの会報「野鳥通信」2022年11.12月号(NO408号)に掲載された。また同所での鳥類標識調査において2023年10月8日にメス1羽が作山宗樹氏により捕獲標識された。日本野鳥の会もりおかの会報「野鳥通信」2024年1.2月号(NO415号)に掲載された。

陸前高田市小友町浦田にて2025年12月14日16:00頃に2羽を金野が発見した。農道にいたが1羽は西の草地に飛び去り、もう1羽は畑に飛び移ってうずくまっていた。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.299(2025年12月・2026年1月号)に掲載された。



写真3. 盛岡市下太田で捕獲標識されたウズラ(作山宗樹氏撮影)



写真4. 陸前高田市小友町浦田で観察されたウズラ

(5) セグロカッコウ *Cuculus micropterus*

盛岡市大新町にて2021年5月23日23:30頃～翌24日4:00頃にオス1羽の囀りを五日市明子氏が確認した。日本野鳥の会もりおか会報「野鳥通信」2021年7.8月号（NO400号）に掲載された。また、盛岡市下太田にて2021年5月31日0:00頃にオス1羽の囀りを三上拓人氏が録音した。日本野鳥の会もりおか会報「野鳥通信」2021年5.6月号（NO399号）に掲載された。さらに、岩泉町釜津田権現の早坂高原にて2024年6月22日にオス1羽の囀りを関川が確認した。日本野鳥の会宮古支部会報「ミサゴの海」No.289（2024年4月・5月号）に掲載された。

(6) アネハヅル *Anthropoides virgo*

矢巾町徳田の盛岡・紫波地区環境施設組合付近の水田で2020年7月5日に成鳥1羽が観察された。日本野鳥の会もりおかの会報「野鳥通信」2020年7.8月9.10月合併号（NO395号）に掲載された。

また、陸前高田市高田町の古川沼にて2025年5月21日8:00頃に成鳥1羽を荒木が発見し、浅川・金野も確認した。周辺で休息・羽繕い・採食し、同日12:30頃に北方向へ飛び去った。東海新報2025年6月5日号と日本野鳥の会宮古支部会報「ミサゴの海」No.295（2025年4月・5月号）に掲載された。



写真5. 陸前高田市高田町で観察されたアネハヅル

(7) ミヤコドリ *Haematopus ostralegus*

宮古市の津軽石川河口にて2023年10月8日に1羽が日本野鳥の会宮古支部の探鳥会で確認された。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.286（2023年10月・11月号）に掲載された。

(8) コシヤクシギ *Numenius minutus*

大槌町大ケ口の大槌川土手の草むらにて2021年4月20日に1羽を菊地信男氏・菊地啓子氏が発見した。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.273（2021年4月・5月号）に掲載された。

また、矢巾町煙山の水田にて2022年4月24日16:00頃に3羽を高橋が発見し、安藤・米倉達夫氏も観察した。3羽で群れ、土起こしをした水田を歩き回って採食していた。翌25日は確認できなかった。日本野鳥の会もりおか会報「野鳥通信」2022年5.6月号（NO405号）に掲載された。



写真6. 矢巾町煙山で観察されたコシヤクシギ

(9) キリアイ *Calidris falcinellus*

陸前高田市小友町の小友浦干拓跡地にて2024年9月19日12:40頃に1羽を浅川が発見した。降雨により一時的に発生した湿地で歩き回りながら、採食行動を取っていた。日本野鳥の会宮古支部会報「ミサゴの海」No.291（2024年8月・9月号）に掲載された。



写真7. 観察されたキリアイ

(10) シベリアオオハシシギ *Limnodromus semipalmatus*

陸前高田市高田町の古川沼にて 2022 年 5 月 22 日 14:45 頃に成鳥夏羽 1 羽を浅川が発見した。中洲で首を背に折り畳み休憩し、その後は中洲を歩き回り採食していた。同日 18:00 頃に同所で金野が同様の採食行動を観察した。日本野鳥の会宮古支部会報「ミサゴの海」No.280 (2022 年 6 月・7 月号) に掲載された。



写真 8. 観察されたシベリアオオハシシギ

(11) アカアシシギ *Tringa totanus*

陸前高田市小友町の小友浦干拓跡地にて 2024 年 9 月 19 日 12:30 頃に成鳥夏羽 1 羽を浅川が発見した。降雨により一時的に発生した湿地で歩き回りながら採食していた。日本野鳥の会宮古支部会報「ミサゴの海」No.291 (2024 年 8 月・9 月号) に掲載された。



写真 9. 陸前高田市小友町で観察されたアカアシシギ

また、雫石町の御所ダム貯水湖で 2025 年 3 月 23 日に 1 羽を久保加世子氏が観察した。日本野鳥の会もりおか会報「野鳥通信」2025 年 7.8 月号 (NO424 号) に掲載された。

さらに、陸前高田市高田町中宿にて 2025 年 5 月 7 日～9 日に成鳥 1 羽を金野が確認した。沼地の流木付近

で採食し、水際で羽を休めていた。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.296 (2025 年 6 月・7 月号) に掲載された。

(12) ツバメチドリ *Glareola maldivarum*

陸前高田市高田町の古川沼にて 2023 年 5 月 16 日 11:55 頃に成鳥 1 羽を浅川が発見した。発見時は古川沼の干出部分で休憩していたが 12:10 頃に飛び立ち、沼上空を数回旋回した後に南西方面へ飛び去った。2023 年 5 月 25 日 12:50 頃には陸前高田市気仙町土手影で成鳥夏羽 1 羽を浅川が確認した。農道上で休憩し、その後は水が張られた水田や畔、農道上でハチ類などの昆虫を採食していた。同日 17:20～18:40 頃には金野が同所で同じ行動をとる様子を観察した。本個体は終認の 6 月 2 日まで同所で同じような行動が見られた。



写真 10. 2023 年 5 月 25 日に陸前高田市気仙町土手影で観察されたツバメチドリ

それ以降の陸前高田市での確認例は以下の通り。

- ・2023 年 7 月 10 日 高田町古川沼 冬羽 1 羽 金野が発見
- ・2024 年 5 月 15 日～19 日 気仙町中堰 成鳥 6 羽 浅川・金野が確認 ※日本野鳥の会宮古支部会報「ミサゴの海」No.289 (2024 年 4 月・5 月) に掲載
- ・2025 年 5 月 14 日～19 日 気仙町中堰 1 羽 浅川・金野が確認

(13) コウノトリ *Ciconia boyciana*

大船渡市日頃市の水田にて 2021 年 4 月 17-19 日に 1 羽が確認された。足環 No は J0203 で、2018 年 5 月 7 日に福井県越前市で飼育下で生まれたメスだった。東海新報 2021 年 4 月 20 日号に掲載された。

紫波町で 2023 年 8 月 4 日～11 日にオス 1 羽を藤澤

幸代氏が確認した。日本野鳥の会もりおか会報「野鳥通信」2023年9.10月号（NO413号）に掲載された。

陸前高田市高田町並杉で2025年3月22日15時45分頃に成鳥1羽を浅川が発見した。水田の上空を巡回しながら飛翔し、西方面へ飛去した。観察個体に足環は無かった。東海新報2025年4月4日号に掲載された。

大槌町大槌第3地割付近にて2025年8月5日に2羽が確認され、翌6日16:30頃に陸前高田市気仙町土手影にて同一の幼鳥2羽を金野が確認した。足環NoはJ0851とJ0853で、2025年4月10日に石川県志賀町で生まれた個体だった。水田で採食し、7日夕方は同市気仙町町裏の、8日夕方は同市気仙町町の電柱へ罅入りした。9日まで同所に滞在し、9:00頃に高田町並杉の上空を巡回し高度を上げて西方向へと飛び去った。東海新報2025年8月22日号に掲載された。



写真 11. 陸前高田市気仙町土手影で観察されたコウノトリ

(14) サンカノゴイ *Botaurus stellaris*

陸前高田市気仙町中堰にて2025年6月11日17:40頃に1羽を金野が発見した。草地で休息・羽繕いし、跳び上がって昆虫を採食し、水田でも採食していた。6月13日には同所でシュレーゲルアオガエルを採食する様子を浅川が観察した。6月17日18:00頃まで同所で継続して確認された。東海新報2025年8月15日号、岩手日報2025年11月15日号、日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.296（2025年6月・7月号）に掲載された。



写真 12. 観察されたサンカノゴイ

(15) オオヨシゴイ *Ixobrychus eurhythmus*

矢巾町医大通にて2022年9月14日にメス成鳥の死骸の一部（左翼）を高橋が発見した。当地にはハヤブサが生息し、発見地点はハヤブサの止まり場所の直下であったことから、ハヤブサに捕食されたと推察された。



写真 13. 拾得されたオオヨシゴイの死骸の一部

(16) アカガシラサギ *Ardeola bacchus*

陸前高田市高田町の古川沼にて 2024 年 9 月 11 日 16:45 頃に上空を西から東へ飛び去る成鳥 1 羽を金野が確認した。2024 年 9 月 14 日 12:40 頃と翌 15 日には陸前高田市気仙町中堰の水田で採餌する成鳥冬羽 1 羽を浅川が確認した。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.292 (2024 年 10 月・11 月号) に掲載された。



写真 14. 陸前高田市気仙町中堰で観察されたアカガシラサギ

(17) アカアシチョウゲンボウ *Falco amurensis*

宮古市宮町の閉伊川河川敷にて 2021 年 5 月 22 日の夕方にメス成鳥 1 羽を関川が発見した。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.274 (2021 年 6 月・7 月号) に掲載された。



写真 15. 陸前高田市横田町で観察されたアカアシチョウゲンボウ

また、陸前高田市横田町宝田の気仙川にて 2025 年 5 月 12 日 10:30 頃にメス成鳥 1 羽を浅川が確認した。河川周辺に大量に発生したトビケラ類やトンボ類、アブ類をフライングキャッチしていた。東海新報 2025 年 5

月 17 日号, 日本野鳥の会宮古支部会報「ミサゴの海」No.295 (2025 年 4 月・5 月号) に掲載された。

(18) マキノセンニュウ *Locustella lanceolata*

一戸町の高森高原風力発電所にて 2020 年 8 月 23 日に 1 羽の死骸が西岡裕介氏により拾得された。死骸は本剥製として岩手県立博物館に保管されている。



写真 16. マキノセンニュウの死骸 (西岡裕介氏撮影)

(19) ギンムクドリ *Spodiopsar sericeus*

陸前高田市高田町中長砂にて 2025 年 11 月 30 日 11:10 頃に雄成鳥 1 羽を金野が発見した。電線にとまる 80 羽ほどのムクドリ *S. cineraceus* の群れに混ざっていた。付近の草地に降りて採餌し、飛んでいたアキアカネを追い掛けていた。後に高田町飯森場の民家のカキの木に移動して実を啄んでいた。同日 15:50 頃には陸前高田市米崎町堂の前の電線に、50 羽ほどのムクドリと共にいるのを確認した。間もなく群れで西方へ飛び去った。東海新報 2025 年 12 月 30 日号, 日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.299 (2025 年 12 月・2026 年 1 月号) に掲載された。

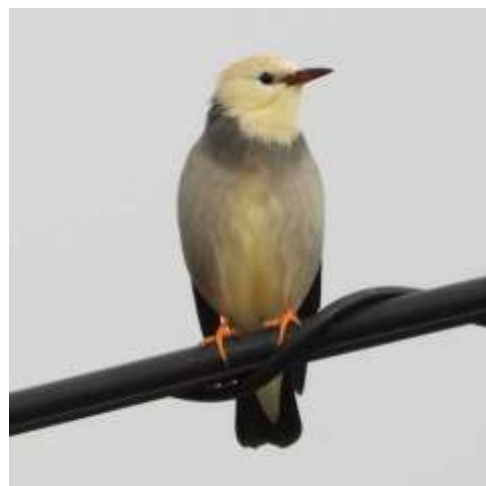


写真 17. 観察されたギンムクドリ (金野椋風氏撮影)

(20) ホシムクドリ *Sturnus vulgaris*

花巻市材木町の花巻税務署付近にて2020年2月17日10:00-12:00頃に1羽を藤村淑子氏が発見した。花巻野鳥の会会報「アカショウビン」No.41（令和2年4月号）に掲載された。

陸前高田市気仙町字砂盛の高田松原復興記念公園にて2024年1月29日9:00頃に100羽ほどのムクドリの群れと共に行動する成鳥1羽を浅川が発見した。草地の地面を歩きながら昆虫類を採食する様子や、電線に群れで飛び移る様子が観察された。その後は同年4月4日まで主に気仙町内で断続的に確認され、特に気仙町中堰の乾燥した水田や草地で採食していた。2月21日には高田町古川の遊歩道でオニグモを採食していた。東海新報2024年4月19日号、岩手日報2024年4月23日号、読売新聞2024年5月18日号、日本野鳥の会宮古支部会報「ミサゴの海」No.289（2024年4月・5月号）に掲載された。

また、陸前高田市気仙町土手影にて2024年11月6日15:40頃に成鳥1羽を金野が確認した。300羽ほどのムクドリの群れに混ざって水田や草地で採食し、電線でムクドリと共に休んでいた。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.292（2024年10月・11月号）に掲載された。



写真 18. 陸前高田市気仙町字砂盛で観察されたホシムクドリ

(21) ノハラツグミ *Turdus pilaris*

陸前高田市矢作町愛宕下で2026年1月13日12:55頃に成鳥1羽を金野が発見した。100羽程のツグミ *T. eunomus* の群れの中に混ざって樹上で休んでいた。13:00頃に南方へ群れごと飛び去った。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.299（2025年12月・2026

年1月号）に掲載された。



写真 19. 観察されたノハラツグミ（上）

(22) ハチジョウツグミ *Turdus naumanni*

紫波町日詰上新田の水田にて2025年11月3日に1羽を松本幸夫氏が発見した。ツグミの群れに混じって見られた。



写真 20. 観察されたハチジョウツグミ（松本幸夫氏撮影）

(23) オガワコマドリ *Luscinia svecica*

久慈市川崎町の新長内橋付近の長内川河川敷にて2025年4月19日にオス1羽を村上が発見した。警戒心が強く、草地に隠れることが多かった。20日・21日

も観察されたが、22日以降は確認できなかった。日本野鳥の会もりおか会報「野鳥通信」2025年5.6月号（NO423号）に掲載された。



写真 21. 観察されたオガワコマドリ

(24) ムネアカタヒバリ *Anthus cervinus*

陸前高田市気仙町土手影の水田にて2025年10月8日13:00頃に成鳥1羽を金野が発見した。数羽のタヒバリ *A. spinoletta* の群れの中に混ざり、土塊の上にとまり鳴き、すぐに飛び去った。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.297（2025年8月・9月号）に掲載された。

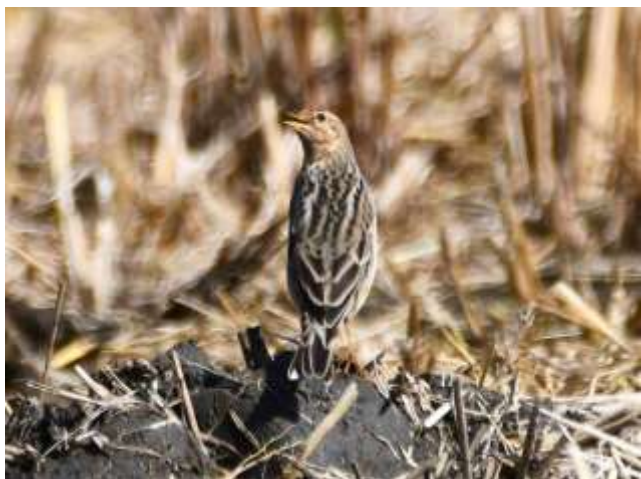


写真 22. 観察されたムネアカタヒバリ

(25) ギンザンマシコ *Pinicola enucleator*

釜石市・大船渡市・住田町にまたがる五葉山の山頂付近にて2024年11月13日14:20頃に雄成鳥1羽を金野が発見した。ナナカマドの樹上で実を啄み、14:30頃に西方へ飛び去った。岩手日報2025年11月15日号、日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.292（2024年10月・11月号）に掲載された。



写真 23. 観察されたギンザンマシコ

(26) ツメナガホオジロ *Calcarius lapponicus*

宮古市松山の閉伊川河川敷にて2020年10月7日にオス1羽を関川が捕獲標識した。日本野鳥の会宮古支部報「ミサゴの海」No.271（2020年11月・12月号）に掲載された。



写真 24. 捕獲標識されたツメナガホオジロ

(27) ユキホオジロ *Plectrophenax nivalis*



写真 25. 観察されたユキホオジロ

久慈市夏井町大崎の長内川河口の海浜草原にて2023年12月29日に1羽を村上が発見した。単独で行動し、

ハマニンニクやマツヨイグサなど草本の種子を採食していた。3月11日まで同所で観察された。

(28) コジュリン *Emberiza yessoensis*

山田町織笠第2地割の織笠川河口付近の湿性草原にて2022年10月17日に冬羽1羽を高橋が観察した。

(参考記録) シロハヤブサ *Falco rusticolus*

紫波町二日町の城山公園付近で2022年12月27日11:00頃に白色型1羽を嶋田和明氏・嶋田百合子氏・及川睦子氏が発見した。上空を滑空し、北上川の東側へ飛び去った。日本野鳥の会もりおか会報「野鳥通信」2023年1.2月号(NO409号)に掲載された。本記録は写真等の証拠が無く、発見者の意向により参考記録とした。

考察

本論文では、岩手県で稀な旅鳥・冬鳥28種の観察情報をまとめることができた。これらのうち、アカツクシガモ・シベリアオオハシギ・ギンムクドリ・ツメナガホオジロの4種は岩手県内での過去の記録は筆者らが知り得る限り無く、岩手県初記録と考えられる。ただし、近隣の青森県・秋田県・宮城県では既に記録があり(日本野鳥の会青森県支部/弘前支部2001, 日本野鳥の会宮城県支部2002, 日本野鳥の会秋田県支部2019), 本県での出現は特別に珍しいことではないと考える。

環境省(国)と岩手県(県)のレッドリスト(環境省2026, 岩手県環境生活部自然保護課2025)に掲載されている絶滅危惧種は、前者のランクが高い順にアカアシギ(国:IA類)・サンカノゴイ(国:IA類, 県:I類)・オオヨシゴイ(国:IA類, 県:I類)・コシヤクシギ(国:IB類)・コウノトリ(国:IB類, 県:I類)・コジュリン(国:IB類, 県:II類)・ウズラ(国:II類, 県:II類)・ツバメチドリ(国:II類)・マキノセンニュウ(国:II類)である。そのうち、草原棲の4種(サンカノゴイ・オオヨシゴイ・コジュリン・ウズラ)は近隣の青森県・秋田県・宮城県で繁殖または越冬しているため(日本野鳥の会青森県支部/弘前支部2001, 日本野鳥の会宮城県支部2002, 高橋ほか2017, 日本野鳥の会秋田県支部2019), 本県は彼らの渡り中継地、種によっては越冬地としても機能していると考えられる。

謝辞

日本野鳥の会もりおかの嶋田和明氏・嶋田百合子氏・及川睦子氏・熊谷淳一氏・高橋宏明氏・作山宗樹氏・松本幸夫氏, 日本野鳥の会宮古支部の久坂一政氏・小出隆介氏, 花巻野鳥の会の本田重明氏・藤村淑子氏, 東北地域環境計画研究会の由井正敏氏・西岡裕介氏から情報や写真を提供いただきました。心より感謝を申し上げます。

引用文献

藤井忠志・四ツ家孝司(2008) 岩手県産鳥類目録および岩手県産珍鳥詳細記録. 岩手県立博物館研究報告 25: 1-11.

岩手県環境生活部自然保護課(編)(2025) いわてレッドデータブック(岩手の希少な野生生物2025年版). 岩手県環境生活部自然保護課, 盛岡.

環境省(2026) 環境省第5次レッドリスト(鳥類).

<https://www.env.go.jp/nature/kisho/5th-rl-2026-book/01-5thredlist-birds.pdf>

日本鳥学会(2024) 日本鳥類目録改訂第8版. 日本鳥学会, 東京.

日本野鳥の会秋田県支部(2019) 秋田県鳥類目録 改訂第4版. 日本野鳥の会秋田県支部, 秋田.

日本野鳥の会青森県支部/弘前支部(2001) 青森の野鳥. 東奥日報社, 青森.

日本野鳥の会宮城県支部(編)(2002) 宮城県の鳥類分布2002. 日本野鳥の会宮城県支部, 仙台.

日本野鳥の会もりおか事務局(編)(2020) 野鳥とともに 人とともに 日本野鳥の会もりおか40年のあゆみ. 日本野鳥の会もりおか設立40周年記念誌編集委員会, 盛岡.

高橋雅雄・長瀬京子・三国孝・久保清子・久保益男・宮彰男(2017) 青森県弘沼におけるウズラの繁殖. *Strix* 33: 199-204.

要 旨

過去に岩手県内で未記録または少数の観察例しかなかった稀な鳥類28種を2020-2025年に確認した。

キーワード：旅鳥，冬鳥，岩手県初記録。